

大学医学部における臨床検査医学講座の重要性 -日本臨床検査医学会の考え方-

2023年3月26日 理事会承認

臨床検査医学は基礎医学と臨床医学を結ぶ総合的・横断的な学問であり、各種疾患の病態解析や新たな臨床検査の開発を含め、基礎研究から臨床応用に至るあらゆるステップに関わりを有します。また、実臨床の場では、臨床検査はまさに診断医学の要として、医療の根幹をなすものです。学生教育の観点からは、将来、どのような医学の専門領域に進む上でも、臨床検査医学の知識・素養は必要不可欠と考えられていましたが、個別化医療に必要となる遺伝子関連検査など先端的手法・高度の医学的判断を必要とする臨床検査が増加している近年、その必要性は益々高まっているといえます。

2018年12月には、検体検査の品質・精度の確保の規定も含まれた「医療法等の一部を改正する法律（平成29年法律第57号）」が成立し施行されました。これにより、検体検査の品質・精度を確保するため、医療機関内で実施される場合も委託される場合も、厚生労働省が定める基準に従って検体検査を実施すべきことが、法令上、制定されました。その中で、相応の管理組織上の要件として、検体検査を行う部門の責任者、精度の確保に係る責任者の設置が定められています。もはや、臨床検査に関する知識・経験なくして臨床検査を実施するような状況は考えられず、我が国の大多数の医療機関において検査が実施されている現状を踏まえ、臨床検査に関する適切な教育はすべての医師に必要と考えられ、臨床検査に関する卒前教育の重要性はいっそう高まっているといえます。

一方、臨床検査に関する専門的医学知識と技能を有し、臨床検査が安全かつ適切に実施できるよう検査室を管理できる臨床検査専門医は、日本専門医機構の19ある基本領域専門医の一つです。臨床検査専門医は、実際の検査の施行を中心的に担っている臨床検査技師とともに、臨床検査領域における診療、教育、研究への貢献を通して、診断医学・予防医学を中心に医療に貢献しています。質・量とも高度の臨床検査が中央化された検査部門で実施されている一定規模以上の病院、とくに大学附属病院を含む特定機能病院等の施設では、当該部門は臨床検査の専門家によって運営される必要があることは論を待ちません。そのために、日本臨床検査医学会では、臨床検査に精通した臨床検査専門医を育成しており、現在も専門医を目指す医師は着実に増えています。これは、臨床検査の卒後教育の重要性を示すものと考えます。

以上のように、臨床検査に関する卒前教育、卒後教育の重要性は増す一方ですが、この一連の流れにおいて医育機関とくに大学医学部の臨床検査医学講座の果たす役割はきわめて大きく、患者診療における臨床検査の重要性に鑑みますとその社会的責任は重大と考えられます。日本臨床検査医学会は、医学教育において中心的役割を果たす大学医学部において、臨床検査医学講座が設置されること、その講座には臨床検査に精通した専任の教授が配置されることは必須と考えていることを表明します。